学校だより　練馬区立大泉学園中学校

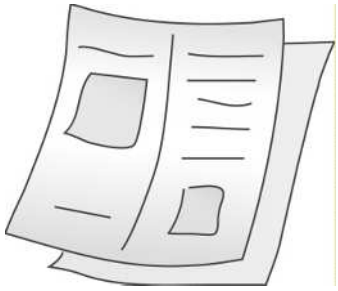
発行日　平成２７年９月１８日（金）９月号
発行人　校　長　桐野　和之

「チャンスをつかまえる」

校　長　桐野　和之

かつて、新劇に杉村春子さんという大女優がいました。私は、この杉村さんの、ある雑誌での対談を読んだことがあります。彼女は確か次のように語っていました。

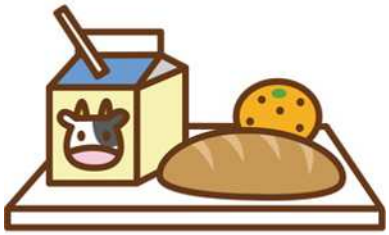
「『チャンスに恵まれない』と嘆く俳優がいるでしょう。半分はウソね。そうした人はチャンスが来てから勉強を始めるの。それでは間に合わない。チャンスをつかむということ、それはチャンスが来たときのために、日頃から勉強しておくこと。そうでなければ、せっかくのチャンスも逃げてしまうのよ。」



大変考えさせられる言葉です。杉村さんの言葉から「チャンスの神様には後髪がない。行き過ぎてからつかもうとしても、つかむことができない。」という西洋のことわざを思い出しました。杉村さんはその言葉どおりの生活をしていました。

八十歳を過ぎてからも、「欲望という名の電車」という三時間に及ぶ劇をほとんど出突っ張りで演じていたそうですが、そんな高齢にもかかわらず、舞台に立てるのは、日頃の努力によるものなのです。食事は無論のこと健康面のすべてを演劇に結びつけて、日常生活を送っていたということです。

さて、期末テストが終わりました。皆さんの中には、毎日勉強していたのに、思ったよりできが良くないと嘆いている人もいるでしょう。「自分なりにあんなに頑張ったのに。」と思っている人もいるでしょう。



杉村さんはこうも言っていました。「内容のいい芝居ばかりに出ていたら、役者は成長しない。」たしかに、誰だって返されるテストが良ければうれしいし、悪ければがっくりします。でも、「成功ばかりしている人より、何回か失敗した人の方が強い。」とか、「失敗は成功の元だ。」と自分を励まし、「本当に準備は十分だったのか。」「やり方に無駄はなかったのか。」等、振り返ってみることも大切だと思います。

特に、自己採点した予想点より実際の点が悪いときは、「できたつもり」「わかったつもり」が多いのですから自分をじっくり見直すことが必要なのです。テスト前、学習計画表を作成し、学習時間を確保しようとしたでしょうが、実際の生活の中では、「まあいいや族」だったのではないでしょうか。

「今日はまあいいや。」とばかり、何もしないのでは本当は力があっても、それを生かすチャンスを逃してしまうことになるのです。

勉強するということは、自分を生かすときのための準備なのかもしれません。そう考えれば、自分でどう準備するかが大切になります。そして、この準備を進める中でこそ、学び方を自分のものにしていけるのです。この学び方と学ぶ意欲こそが学力なのです。心しておいて下さいね。

練馬区立中学校生徒海外派遣

My best memories in Australia

３年Ｂ組　男子生徒

　僕は今回のオーストラリアの海外派遣で多くの体験をさせてもらいました。異なった文化と言語の国に行きホームステイをしながら学校に通いました。彼らはとても優しく接してくれ、英語もわかりやすく話してくれました。僕の英語が相手に伝わり、コミュニケーションがとれることは本当に楽しいことだと感じました。しかし、言いたいことの半分くらいしか言えなかったので、もっと頑張って勉強をしようと思いました。確かに伝えたい気持ちと知ろうとする気持ちが大切だと実感しました。同時に英単語を知らない、話せないと、深い交流は難しいと思いました。英語は人と人を結び、理解しあうためのツールなのだと思います。この貴重な経験により、僕は自分の世界観が変わりました。また、相手の立場を理解し、異なる言語での世界に心を開き、自分の狭い考えを乗り越えられたように思いました。

　さよならパーティーではソーラン節を踊り、日本文化の紹介を各ブースに分かれて行いました。これは日本で研修中にみんなで一生懸命準備をしたものです。これらも国際交流を深め、オーストラリア人と日本人が仲良くなれる機会だったと思いました。

　多くの生徒達にもこのような機会があると良いと思います。そしてこのような国際交流の重要さと楽しさを多くの人たちに伝えていく努力をしたいです。僕たちにこのような貴重な機会を与えていただきとても感謝しています。ありがとうございました。

We do love Australia

３年Ｅ組　　女子生徒

　八日間という短い間でしたが、多くの驚きや楽しさでいっぱいの日々でした。初日から失敗ばかりで、言葉も通じずパニックに陥ったこともありましたが、バディやホストファミリーはいつも笑って助けてくれました。私の中で特に印象に強く残っているのは、バディとホストマザーが、フェリーに乗りに、連れていってくれたことです。食事をした後、フェリーの上から見た景色とものすごい寒さは、一生忘れません。オーストラリアの街の夜景は息を呑む程美しく、時が過ぎるのも忘れてしまう程でした。

　学校では、多くの人が私達に話かけてくれました。日本語で挨拶をしてくれる人もいて、嬉しかったです。いろいろな人種の人が生活していたため、自分が外国人なんだ、という感覚が薄れていきました。皆とても自由で、髪を染めたり、ギターを演奏しながら歩いている人もいました。日本より大分規則がゆるいのですが、それぞれが自分の行動に責任を持っていました。また、日本語の授業もあるようで、日本とオーストラリアの強い結びつきを改めて感じました。オーストラリアは、フレンドリーで自由な人が多く、私達も癒されました。私達日本人も、オーストラリアの友好的な部分を見習うべきだと思います。最後になりましたが、練馬区教育委員会の皆様を始めとする、この海外派遣に関わった全ての皆様に心より感謝しております。ありがとうございました。

１年生岩井臨海学校を終えて

第一学年主任

　夏季休業中の８月５日から３泊４日の日程で岩井臨海学校が実施されました。
　１４３名の生徒が参加したこの行事に先駆けて、７月下旬から８月上旬にかけて計６回の水泳訓練が実施されました。最初は泳ぎに自信がなかった生徒も、保健体育科の先生方の丁寧で熱心な指導を受けたことで、泳力向上はもとより、バディーの組み方や隊列、そして報告の仕方まで余裕を持って行えるようになりました。
　そして、いざ岩井へ。出発当日は天候にも恵まれ、絶好の水泳日和になりました。開校式を終え、午後から海での水泳練習が始まりました。海で泳ぐことが初めてで、プールとの違いに戸惑う生徒もいましたが、波の状態もよく予定通りの練習ができました。幸運なことに、初日の夜は年に１度の花火大会と日程が重なり、夏の夜空に舞う花火を楽しむことで一服の涼を感じるとともに、１つ多く思い出作りができました。

　幸いにも、その後も好天に恵まれ、予定通りに水泳練習が行われ、子どもたちの泳力も日を追うごとに伸びてきました。そして、３日目に行われた遠泳では、大遠泳、中遠泳、小遠泳各班の全員が見事に完泳することができました。
　この３泊４日の臨海学校という集団生活を通じて、子どもたち同士の絆はより深いものとなり、何よりも一人一人が大きく成長して無事に帰校できたことは意義深いことであり、学年全体に携わる私自身の心に深く刻まれるものとなりました。

「臨海学校から学んだこと」

１年Ｂ組　男子生徒

　岩井臨海学校という３泊４日間を過ごして心に残ったこと、学んだことがあります。
　まず、心に残ったことは遠泳が成功したことです。ただ泳ぎきっただけでなく、たくさんの支え、そして応援があったからこそ泳ぎきれたのだと思います。
　次に学んだことです。１つめは自分たちで動くということです。いつもは先生方から「～しなさい」などと指示が出てから動くけれど、臨海学校は自分たちでしおりを見て、５分前行動をするなどの工夫をしたり、自分自身で行動できました。２つめは、協力する大切さ、努力する大切さです。「協力」とは泳いでいるときに声をかけたり、部屋の仲間と行動を共にする時に大切になることを感じました。「努力」とは夏休み前から練習して泳げなかった人もしだいに泳げるようになり、全員が泳ぎきったことです。この２つの言葉は当たり前のことですが、ぼくは改めて大切な言葉だと実感しました。

　このことから臨海学校は泳ぐだけではなく、たくさんのことを教えてくれる学びの場だということに気づきました。これからは、１日１日を大切にして、学んだことを生かしていきたいです。

同窓生の話を聞く会（職業講話）

９月１２日に本校の同窓生をお招きし、１年生のキャリア教育の一環として職業講話を実施しました。会には昭和５２年度卒業のＡさん（和菓子店経営）、昭和５４年度卒業のＢさん（保険代理店経営）に講師としてご来校いただきました。会は生徒達のインタビューによって進められ、お二人には中学校時代の夢、仕事をしていて楽しいことや大変なこと、中学校時代の思い出などについて質問がされました。

Ａさんは、自分の家が和菓子屋だったため、また、周囲の方々からも「店を継ぐのか」ということをよく言われ、当たり前のように和菓子屋になったことを話されました。

Ｂさんは、中学校時代に野球に夢中になり、そのため中学校の野球部の監督になることが夢で、中学校の先生になることを考えていたそうです。しかし、大学に入学後、お父様がされていた保険代理店で働く姿を見て、自然とその職業に就いたそうです。

お二人の仕事をしていて楽しいことは何ですか？という生徒の問いかけに、Ａさんは、「お客さんに食べていただいたお菓子が美味しかったと言われたときや、自分が仕事で苦しいことを乗り切ったとき」と語り、大変なのは「同じ作業を地味に繰り返すこと」とおっしゃっていました。Ｂさんはお客さんに「保険に入っていて良かった」と言われたときや、「いろいろの方々と交流ができること」と語り、辛いのは「人の生死に関わることが仕事柄ある」とお答え頂きました。

お二人からは生徒達に、「今の年齢で話を聞けない人は大人になっても聞けない。今は話を聞く練習をしている時と思ってほしい。」や将来仕事をするにあたっては「何をしたいのかという自分の強い思いや意志をしっかりともってほしい。また、中学校時代の学習を大切にしてほしい。」とお話しされました。さらに学習する中学生や高校生という時間はあっという間で大人として仕事する時間が長い。だから今のこの時を貴重な時間として大切にしてほしいと話されました。お二人の講師の方々にはお忙しい中学校を訪問され、貴重なお話を生徒達にして頂きました。本当にありがとうございました。

～部活動の記録～

卓　球　女子生徒

○７月　都大会シングルス・・ベスト１６進出（関東大会進出）

○８月　関東大会（山梨県）　１回戦勝利、２回戦敗退

バスケットボール部（女子）

○保谷杯・３位リーグ優勝

○大泉カップ優勝

学園３０－１２大二、学園２０－１０大北、学園２２－１８大泉

○区民大会・予選リーグ、決勝トーナメント（ベスト８進出）

学園４１－１２関、学園６１－７開四、学園４０－１３八坂、学園３０－４６谷原

学園５６－５１豊玉、学園４１－４４光三

野球部

○新人大会　学園０－７光二

女子バレーボール部

川崎杯優勝　学園２－０三原台、学園２－０中野二、学園２－０光四

学園１－１練馬（得失点差で優勝）